

國學院大學學術情報リポジトリ

The Development of the Frame Story Style in Isoppu Kabushikigaisha at Modern Literature

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: lwase, Yuka メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000286

『イソップ株式会社』に見る 杵物語形式の現代文学的發展

岩瀬由佳

はじめに

井上ひさし著『イソップ株式会社』⁽¹⁾は、2004年5月15日から翌年1月29日まで約7ヶ月半に渡って読売新聞の土曜日朝刊に隔週連載された小説である。新聞連載に先立ち、2004年5月8日の読売新聞朝刊30面に、この作品の挿絵を担当する和田誠との対談が掲載された⁽²⁾。

この対談の中で、井上は、この作品の形式を「毎回違う小さなお話が読み切りで入り、外側に、それを束ねる連続した物語があって、内と外で響きあう」仕掛けであると説明している。和田はこれに答えて、「つまり、シェンラザードが語る『千一夜物語』みたいなものですね」と指摘した。井上自身はこのインタビューの中で『千(夜)一夜物語』に言及していないが、和田の指摘を否定もしていない。井上が明確に『千一夜物語』の形式を「お手本」として意識していたかどうかは不明であるが、『イソップ株式会社』は実際に『千一夜物語』と同じ物語形式、すなわち入れ子構造の「杵物語」形式で書かれている。

また、同じ対談の中で和田の『イソップ株式会社』という作品名についての質問に対して、井上は「アンデルセン株式会社でもグリム株式会社でもよかったんですけども、グリムだと何だか落ち込みませんか?」と返し、さらに「イソップの方が、いい意味で無責任な感じがして、いろいろな話が書けそうな気がするんです。」と答えている。ここで井上が言及しているのは作中の出版社の社名として現れる「イソップ」であるが、話の末尾に教訓をつけるという作品の形式面でも、『イソップ寓話』を意識していると思われる。

この作品については、宮川健郎(2011)が、鈴木三重吉の手紙や『イソップ寓話』の「カラスとキツネ」を引用しつつ、類似点と相違点を指摘している。また宮川は、橋本良明の「コミュニケーションとしての手紙」を引用し、『イソップ株式会社』が「ふつうの書簡体小説」ではなく、「手紙というメディアがもつ特性をよく生かした小説」であり、「コミュニケーションの物語という意味での書

簡体小説」と評している⁽³⁾。

本論文では、『イソップ株式会社』とアラブやインドの古典的杵物語作品を主に形式について比較し、『イソップ株式会社』が古典的杵物語の形式を土台にしつつ、いかに現代的アレンジをほどこし、「型破りの作品」⁽⁴⁾に仕上げたのかを論じる。杵物語の形式をとる古典的作品としては、この形式で世界的によく知られている『千一夜物語』を主な比較対象とする。その他、インドの動物寓話集として有名な『パンチャタントラ』作品群、特に小本を取り上げる。インドには、『屍鬼二十五話』や『鸚鵡七十話』など杵物語形式の娯楽作品が多数存在するが、『パンチャタントラ』作品群は、物語の登場人物が他の登場人物に語る際に各挿話に教訓を付す形式となっている。また、杵物語の形式を取っていない『イソップ寓話』を、挿話の寓意に関して比較の対象とする。

1. 『イソップ株式会社』のあらすじと背景

1. 1. あらすじ

全体の「杵」となる物語では、幼い頃に母を亡くし、童話作家になる夢を断念して絵本と童話の出版社を経営する父を持つ姉弟、さゆりと洋介が、林間学校の世話をする祖母トキの住む村で夏休みを過ごす。営業のため海外出張中の父が出発前に書きためた話に手紙を添えて、社員の弘子が1日1通、姉弟のもとへ毎日送ってくる。いなかの生活を満喫しながら、姉弟は手紙と話を楽しみに読んでいたが、さゆりは次第に弘子が家族の中に踏み込んできていると感じ、複雑な気持ちになる。そんな中、仕事がたら村にやって来た弘子と話すうち、弘子が父の代筆をしていることを知り、代作もしているのではないかと疑う。夏休み終わり近くには、送られてくる話の内容から、洋介は父ではなく弘子が話を書いたと推測する。さらにその翌日届いた話の筆跡から、さゆりは弘子が話を書いていたことを知り、衝撃を受ける。しかし、夏休みが終わると、さゆりは、母を亡くして以来続いていた、数を数える癖がいつの間にか直っていた。また、さゆりは新しい関係を受け入れることを決意し、連作「小さな王様」の最後の2話を弘子とふたりで合作する。さゆりが最後の場面を力強く読み上げ、物語は幕を閉じる。

「はじめのお話」によれば⁽⁵⁾、光介は、夕食の後に子どもたちに自作の童話を聞かせる「儀式」にこだわる。亡くなった妻との約束で、「一日に一つ、かならず童話をつくって」妻に聞いてもらうのである。妻亡き後も、ときどき休むことはあっても続いている。そういう訳で、営業の海外出張で多忙を極めているにもかかわらず、光介は出発前に話を書きためて、弘子に毎日投函してもらうというかなり面倒なことをしているのである。

『千一夜物語』の中で、頑なな王様の心が、ヒロインのシャハラザードが語る物語の力で次第に和らいでいくように、『イソップ株式会社』でも、母の死以来

こわばってしまった主人公さゆりの心が、父親から届く物語や他の登場人物が語る物語を読んだり聞いたりしているうちに、次第にほげ、父の再婚を受け入れられるようになる。しかし、話を作り語る役と聞く役が固定している『千一夜物語』と異なり、『イソップ株式会社』では、聞き手であったはずの主人公が、最後には弘子と力を合わせて話を作り、語る役になることで、少女の成長が読者の心に強く刻まれる。

1. 2. 物語の舞台

父親の光介が経営するイソップ株式会社は、最寄り駅が東京駅から3駅⁽⁶⁾で、「四角くて高い建物が建ち並ぶ大きな川」に「注いでいる小さな川」の棧橋近く⁽⁷⁾、「衣類や花火や雑貨の間屋街」にある⁽⁸⁾。「大きな川」は隅田川、そこに注ぐ「小さな川」は「神田川」⁽⁹⁾ということから、恐らく浅草橋の辺りであろう。井上ひさしが1984年に旗揚げした⁽¹⁰⁾制作集団、こまつ座の所在地は東京都台東区柳橋である⁽¹¹⁾が、この場所をイソップ株式会社の所在地として想定していると思われる。

姉弟の祖母が住む「いなかの村」は、東京駅から「北斗星の出るほうへ新幹線で一四四分、それから日の沈むほうへバスで三分」、そこからさらに歩いて行ったところにある⁽¹²⁾。この描写から、姉弟が乗った新幹線が東北新幹線であることがわかる。井上ひさしの出身地、山形県東置賜郡小松町（現・川西町）は、まさに作中で姉のさゆりが東京駅からの行き方を描写した場所である。一見、この物語は東京の核家族のいなかとしてステレオタイプ的に東北地方を選んだように見えるが、「こまつ座」の名前の由来となっている作者の生まれ故郷こそが、実はこの物語の「いなか」に設定されていることがわかる。井上の、生まれ故郷に対する愛着が現れていると言えるだろう。

想定される主な読者層⁽¹³⁾である少年少女には、物語の筋を理解する上で、もちろんここまで詳細な地理情報を知る必要は必要ない。姉弟の行き先が東北だということがわかれば十分である。しかし、もし、読者のそばに大人がいれば、「北斗七星の出る」方角に始まって、より詳しい情報を提示できるだろう。もしその大人が井上ひさしファンであれば、なおさらである。『イソップ株式会社』における、まるでクイズであるかのような地理情報の示し方は、親子で楽しめるようにとの、井上の仕掛けの一つかもしれない。

1. 3. 物語の時代

物語の時代は、姉弟が東京駅から東北新幹線に乗っていることから、東北・上越新幹線が東京駅開業した1991年以降⁽¹⁴⁾、『イソップ株式会社』の新聞連載が始まった2004年までのどこかという以上のことは言えない。作中、姉弟の祖母がテレビ、マンガ本、ゲームセンターに言及している⁽¹⁵⁾が、21世紀の子どもたちに

は当たり前前の携帯電話も電子メールも作品の中には一切出てこない。物語の初めになじみのある新幹線が出てきて安心して読んでいると、見たこともない田舎の景色の描写に、まるで昭和の時代にタイムスリップしたような感覚を、若い世代の読者が覚えることを、井上は狙ったのかもしれない。

2. 形式

2.1. 枠物語と挿話の形式

19世紀にアントワーン・ガランが『千一夜物語』をアラビア語写本からフランス語に翻訳してヨーロッパに紹介する⁽¹⁶⁾はるか前に、ヨーロッパでは14世紀にジョヴァンニ・ボッカッチョの『デカメロン』やジェフリー・チョーサーの『カンタベリー物語』において、登場人物がそれぞれ話を物語る形で枠物語の形式が使われている。インドでは大叙事詩『マハーバーラタ』および『ラーマヤナ』はもちろん、『鸚鵡七十話』や『屍鬼二十五話』等、後代の様々な文学作品の形式として定着している。

『イソップ株式会社』は新聞連載時の1回掲載分を1話とした全37話から構成され、全体として枠物語構造となっている。ほとんどの場合、1話中に1回完結型の挿話が1つのみ含まれる。例外は、挿話が2話入っている「第十二のお話」と「小さな王様」のシリーズである。「小さな王様」シリーズは、「第五のお話」から最終回の「第三十七のお話」まで、断続的に合計11回に渡っている⁽¹⁷⁾。古典的枠物語作品と『イソップ株式会社』の大きな違いの1つは、挿話の語りの主な手段として手紙を用いていることだが、これは、井上の手紙という媒体への愛着⁽¹⁸⁾が、1つの理由かもしれない。

『千一夜物語』には、有名なシンドバードの物語⁽¹⁹⁾をはじめ複数夜に渡る物語が少なくないが、「小さな王様」シリーズのように飛び飛びで話が進むような形式の物語はない。『イソップ株式会社』は、挿話は基本的に一話完結であるからこそ、このように例外的な不定期連載形式が可能になったと考えられる。多数の挿話がそれぞれ不定期連載だとしたら、たとえ伝達媒体が手紙だとしても、混乱しかねない。『パンチャタントラ』作品群の挿話は、教訓を伝えるための手段として挿話がいられるので、1つの教訓を伝えるための挿話が分断したシリーズものにされることはない。

『千一夜物語』や『パンチャタントラ』作品群等の古典的枠物語作品では、登場人物が語る物語の中で、さらに別の物語が語られる多重入れ子構造の形式は珍しくない。しかし、このような形式は『イソップ株式会社』では採用されていない。『イソップ株式会社』の挿話は概して、挿話中の登場人物が別の物語を語るほど長くない。「小さな王様」の冒頭部分⁽²⁰⁾で、大臣やその妻が語る話の非常に短い例がそれぞれ1つずつ挙げられているのみである。

2.2. 物語と詩

教訓を韻文で示す『パンチャタントラ』作品群と異なり、作中の詩に教訓的な意味は薄い。娯楽作品の『千一夜物語』は、作中に数多くの韻文（詩）がちりばめられている。例えば、シャハラザードが毎夜シャハリヤール王に話を物語るようになる経緯を説明する序章の中で、ジンニーの箱から出てきたおとめの美しさを、詩人アティーヤの詩を引用して描写している⁽²¹⁾。また、そのおとめが、女が何かしようと思ひこんだら、どんなものも引き留められはしないと云って、2人の詩人の詩を引用している⁽²²⁾。また、「海のシンドバードと陸のシンドバードの物語」では、物語の初めに陸の「荷運びや」シンドバードが海のシンドバードの豪華な屋敷の前で、神の不公平を嘆く詩を吟じるが、それを耳にした海のシンドバードに命じられた小姓が彼を中に招き入れる⁽²³⁾。このように、詩は、物語の進行に効果的に使われている。

『イソップ株式会社』は、38話中6話⁽²⁴⁾に、『イソップ株式会社』や挿話の登場人物による歌や詩の朗読の形で詩が使われている。そのうちの4篇は姉弟の祖母トキが作った詩で、さゆりと洋介⁽²⁵⁾あるいは洋介と友だちの幸太郎⁽²⁶⁾が歌ったり、弘子さん⁽²⁷⁾やトキおばあさん本人⁽²⁸⁾が読み上げる。もう1篇は「詩の先生」の作品をさゆりが朗読⁽²⁹⁾したもの、残る1篇は「小さな王様」シリーズ第2話の中で大臣が「がなった」歌⁽³⁰⁾である。

井上ひさしの作品は登場人物が歌や小唄などを歌うことが珍しくない⁽³¹⁾。井上がどの程度『千一夜物語』を意識していたのか定かではないが、詩を作中に盛り込む井上の作風は、枠物語形式以外にも『千一夜物語』と共通している。

3. 枠と挿話

3.1. 挿話の伝達方法

『イソップ株式会社』の光介による「お話」は、弘子からの手紙と一緒に封筒に入っている場合がほとんどだが、他の登場人物が語ったり、郵送以外の形で届き語られる話もいくつかある⁽³²⁾。

例えば、物語の冒頭、「はじめのお話」の「スフィンクスのなぞ唄」は郵送ではなく、話を書かれた原稿用紙のみを封筒に入れて、弘子が姉弟に手渡している。話を郵送するのは、「第二のお話」からである。また、「おろか村」(第十七のお話)は、姉弟が滞在する村にやって来た弘子が口頭で伝える。「小さな王様」シリーズ5回目(第十八のお話)は、郵便配達人が姉弟に手渡すが、郵送されていない⁽³³⁾。同シリーズ9回目以降は、さゆりと洋介、またはさゆりと弘子の合作であるため、紙に書いてはいるが、当然ながら姉弟のもとに郵送していない。

この他、「うっかり博士の最後」(第十のお話)は、さゆりが図書整理している

時に本から落ちた3枚の紙に書かれていたお話であるし、「魚清のお兄さん」(第二十三のお話)、「ゴンベ狸」(第二十九のお話)、「長助さん」(第三十一のお話)、「巡り会い」(第三十二のお話)は、それぞれ順に、図書を寄贈した詩人、郵便配達人、トキおばあさん、帰りの新幹線で乗り合わせた男性が姉弟に口頭で語ったお話である。さらに、物語の終盤になると、姉弟は東京の家に戻っているため、もはや田舎で父からお話の書かれた手紙を受け取るという形にはならない。それどころか、姉弟は自ら父が書き始めた連作の続きを創作している。

したがって、ファックス送信された「猫のミラノ」(第三十三のお話)や、厳密には「お話」とは言えない「苦心の歯医者さん」(第三十四のお話)を含めて、姉弟のもとに弘子からの手紙とともに郵送されたものは挿話計38話中23話であり、これは全体のおよそ6割にあたる。弘子や郵便配達人が姉弟に手渡ししたものを含めれば25話だが、全体に対する割合は6割強にとどまる。

『千一夜物語』では、大臣の娘シャハラザードが、妹ディーナーザードに促されて、夜ごとにシャハリヤール王に直接物語る。シャハラザードは夜明けとともに話を止めるため、王はその続きを聞くためにシャハラザードの処刑を延ばし続け、とうとう千一夜に至る。この物語では、相手に直接物語る事が重要であり、手紙などでは同じ役割を果たすことは望めない。

『パンチャタントラ』作品群でも、目の前にいる相手を説得したり諭したりするためにたとえ話をするので、手紙はふさわしいとは言えない。さらに、5つの枠物語のうち、第1巻から第4巻までの主要登場人物がすべて動物なので、当然ながら手紙という手段はそもそも不可能である。

上に見たように、「枠物語」形式という点で『千一夜物語』や『パンチャタントラ』作品群と共通しているものの、『イソップ株式会社』は挿話の伝達方法という点では大きく異なっている。

3. 2. 枠と挿話の関係

『千一夜物語』では、シャハラザードが夜ごと物語る挿話の目的は、王の蛮行を止めることであり、語る挿話は聞いて楽しい娯楽目的の物語である。ひとたびシャハラザードによる語りが始まると、枠の物語はほとんど進行しない。シャハラザードはひたすら、夜が更けたので語り初め、夜が明けると話をやめる、この単調な繰り返しに終始する。序章で枠の物語により読者(聞き手)の注意を大きく引きつけた後は、むしろ個々の挿話の方がエンターテインメントの中心と言える。

教訓目的の『パンチャタントラ』は逆に、枠の物語が重要である。それは、インドの『パンチャタントラ』作品群が5つのテーマに分かれた、王子の教育を目的とした「君主の鑑」的教本であり、枠の物語こそがその5つのテーマに沿った教訓を体現している。埋め込まれた話は、枠の物語の中で登場人物が互いに交わ

す議論などの中で相手を説得したり反駁するのに用いられるのみであり、挿話の目的は、文脈に応じた、登場人物の忠告等である⁽³⁴⁾。

『イソップ株式会社』はと言えば、「お話」を語る目的は家族のつながりであり、一家の約束事でもある。また、枠の物語がどんどん進行するという点では『パンチャントラ』作品群に近いが、上のどちらとも完全には一致しない。本来、いち挿話であるはずの「小さな王様」は、シリーズものとして現れることにより、枠の物語に強い影響力を持つことになる。何より、物語の作者が変わっていき、合作になり、最後にはこの話を書ききることで、主人公の成長が描かれる。「枠物語」という形式にしたがっているように見えて、実際にはその枠を破り、読者に意外性を印象づけるとともに物語のクライマックスを意識させている。

4. 物語の教訓と挿話の目的

4.1. 挿話の教訓の有無

さゆりが「第二十八のお話」の中で回想している⁽³⁵⁾が、光介は出張に出かける際に成田空港で「お話」の後の教訓をよく読むように、と言い残している。「教訓は父の署名」であり、教訓がついているのが当たり前のはずである。それゆえ、「第二のお話」には教訓がついていないにも関わらず、洋介は、お話を讀んだ後で自ら教訓を推測し、それを自分で批判している。毎日のことだから批判するのが習慣になっているのかもしれないが、光介による「お話」の教訓の多くは姉弟、特に洋介に批判される。批判されていないのは、「第十三のお話」と「第十四のお話」のみである⁽³⁶⁾。

しかし、『イソップ株式会社』全体で見ると、38挿話のうち最後に教訓がついているものは、9話にとどまる⁽³⁷⁾。この9話のうち、「第十二のお話」のワープロで書かれた2つの挿話を除いて、7話すべてが光介の手書きによるもので、「小さな王様」シリーズ第3話を含む⁽³⁸⁾。「第十二のお話」の1話目「近眼先生」が届いた翌日のさゆりの落ち込む様子から、光介のお話が手書きでなくワープロで届くのは、この話が初めてであることがわかる。

『イソップ寓話』は読者に向けて、『パンチャントラ』作品群は登場人物が相手に対して教訓を伝えるのが話の目的なので、個々の話すべてに教訓が付されており、例外はない⁽³⁹⁾。『イソップ株式会社』の挿話に教訓が付してあるものとならないものがある理由は2つ考えられる。1つは、枠の物語の中で、弘子が創作した話には教訓をつけないことによって、「教訓は父の署名」であることが読者に見えるようにしているのではないか。もう1つは、教訓を与えられなかった話について、「第二のお話」の中で洋介がしたように、隠れた教訓を読者に考えてもらおうということではないだろうか。たとえその教訓が気に入らなかったとしても、洋介のように悪態をつけばよい。

4. 2. 挿話と教訓の目的

『イソップ株式会社』における挿話は、そのほとんどが、語り手が相手に直接語りかけるのではなく、手紙という媒体を介している。そのため、特定の場面に応じて特に何かを意図した教訓ではなく、一般的な教訓と言える。その点で、枠物語を持たない『イソップ寓話』に似ている。

聞き手、特に弟は概して、手紙の「お話」に添えられる教訓に批判的である。これも、語り手と聞き手の直接の対話ではないことが大きな理由であろう。

『パンチャタトラ』作品群では、物語中の他の登場人物に語る形をとりながらも、実質的には読者に対する教訓である。1つ1つの挿話は、特定の教訓を読者に提示するために語られていると言える。読者に対して一方的に寓意を提示する『イソップ寓話』と異なり、登場人物の対話の中で話を語るため、聞き手の登場人物が議論の中で語り手に対して、挿話の教訓について反論することはある。

5. 「小さな王様」シリーズの特殊性

『イソップ株式会社』の「小さな王様」シリーズが他の挿話と異なるのは、飛び飛びの連載という特殊な形式だけではない。

5. 1. 語り手と聞き手の変化

まず、話の聞き役と、話を作り語る役の交替が大きな特徴である。受動的な聞き手であったさゆりや洋介が最後には互いの協力し合って話を紡ぎ、本来創作者の光介は、最後には聞き手に転じている。また、両者の中間に弘子が位置し、橋渡し役を務めている。

光介が「小さな王様」シリーズ第1話から第3話までを手書きで書いた後は、少なくとも第5話から第8話は恐らく弘子が引き継いで書き、第9話はさゆりと洋介の合作、第10話と第11話はさゆりと弘子の合作である。枠の「第三十三のお話」で、さゆりは「洋ちゃんとうわたし、それから弘子さんの三人で、つづきを書きましょうよ」と提案するが、実際には洋介はその後の合作の場には不在で、弘子と二人で仕上げることになる。もともと弘子に好意を抱いている洋介を排除し、物語の核心であるさゆりと弘子の関係にしぼり、さゆりの心情をより強く読者に印象づけるためかもしれない。

5. 2. 現実と虚構

シリーズ第5回（第十八のお話）と第7回（第二十四のお話）では、光介の会社やその従業員、すなわち、枠物語中の登場人物にとっての現実世界の要素が、挿話に現れ始める。架空のお話だと思って安心して読んでいたさゆりは、ここで、

「現実世界」と「虚構世界」が近づいたかのような、あるいは、前者が後者の中に滑り込んできたかのような奇妙な感覚にとらわれる。洋介の方は、お話はお話だと割り切っていて、姉のこのようなとまどいに共感しない。

『イソップ株式会社』は、杵物語で描かれる「現実世界」と挿話の「架空世界」の垣根を取り払おうとしているように見えるが、その意図は何だろうか。現実世界の人物や建物などの環境を虚構の世界に持ち込む手法は、一般的な読者を対象としない、例えば親が子どものために創作して聞かせるような場合には珍しくないだろう⁽⁴⁰⁾。子どもを主人公にして冒険させたりするのである。「小さな王様」の冒頭から自分や弟が登場していれば、そういう話だと思って読んだのだろうが、完全なフィクションだと思っていたために、さゆりは不意打ちを食らったように感じたのである。しかも、現実の人物が話の中に出てくるばかりでなく、架空の登場人物が現実の東京にある父の会社に入ろうとしている。「小さな王様」シリーズのように、物語の登場人物が現実世界にやって来たかのように描写するのは、あまり普通のことではないかもしれない。物語の登場人物が現実世界にやって来たかのように描写する『イソップ株式会社』は、身内を対象とする語りの手法を、常識とは逆の形で文学作品に取り入れた物語と言えらるだろう。

一方、『千一夜物語』や『パンチャタントラ』作品群などの古典的な杵物語作品では、杵物語で描かれる「現実世界」と挿話の「架空世界」は、はっきり区別されている。語りの場面になると、現実世界の喩えがあつたとしても物語はあくまで架空の世界であつて、語り手や聞き手と直接関係のある登場人物が物語に現れることはない。『パンチャタントラ』作品群のような寓話集では、そのような登場人物が物語に現れたら、物語はたとえ話としての性質を失ってしまうことになるため、当然である。

まとめ

『イソップ株式会社』が「杵物語」形式の物語であるのは間違いない。しかし、井上ひさしは現代小説家の手腕をもって、杵物語の形式を保ったまま、古典的杵物語には見られない、杵物語形式の新たな可能性を示している。すなわち、一方で、古典的作品が多用する多重入れ子構造はほとんど採用しないが、他方で、特定の挿話「小さな王様」をシリーズ化することにより、その挿話を他の単発の挿話から際立たせている。さらに、「小さな王様」シリーズの進行は、光介が最後まで書かなかったために必然的に書き手の交替を伴うことになる。最終的に、もともとは受動的な聞き手役だった主人公さゆりが、父の再婚という新しい人間関係を受け入れようと前向きに決心するようになる過程で、他者すなわち弟や父の再婚相手と力を合わせて新しいものを創作し発信する側へと変貌する。このように、杵物語の挿話を単なる語りの手法から、ストーリーそのものにより深く関わ

るものへと進化させていることがわかった。

また、「小さな王様」シリーズでは、現実世界の人やものを物語の虚構世界に持ちこみ、その虚構世界の中の現実世界に、虚構世界の登場人物を入り込ませている。主人公さゆりが思わず慌てているが、物語の登場人物が現実世界にやって来たかのような錯覚にとられる。このように身内を対象とする語りの手法を、常識とは逆の形で文学作品に取り入れているのも、『イソップ株式会社』が粹物語の形式を応用したものと思われる。

全国紙の土曜版に見開きカラーで毎週連載される物語の読者として、井上は高学年以上の小学生および大人を想定しているが、『イソップ株式会社』は、子どもたちが普段読んでいる物語などでおそらくなじんでいるだろう粹物語の形式を用いて、さらに、大人がいっしょに読むことでより理解が深まる仕掛けもほどこして、親子で楽しめる文学作品を見事に作り上げたと言える。

『イソップ株式会社』中の挿話一覧

No	夏休みの	話の タイトル	伝達媒体	伝達方法	話の内容	詩	教 訓	姉弟の反応	備考
1	前～ 1日目	スフィンクスの なぞ嘖	原稿用紙に 父の手書き 1	弘子から手 渡し	なぞかけ 父のメッ セージ付	—	—	洋介「むずかしいよ ね」、さゆり「簡単よ」	・「一日一話」の経緯 ・会社最寄り駅から東京 駅の車中で読む
2	1日目	絵の具の秘密	原稿用紙に 父の手書き 2	速達郵送、 弘子の手紙 つき (A)	実話	○	—	洋介は教訓を推測し て批判、さゆり「わ からない」	・1と同日 ・林間学校初日か？
3	(2日目)	黄金の壺	(父の 手書き3)	郵送、(A)	フィク ション	—	○	姉弟の反応不明	・林間学校開設の経緯 ・さゆりが読み上げる
4	(3日目)	日本一きれい	(父の 手書き4)	郵送、(A)	実話	—	○	洋介は教訓に反論	・地藏堂で雨宿り
5	(4日目)	小さな王様 (1)	(父の 手書き5)	郵送、(A)	フィク ション	○	—	姉弟の反応不明	・さゆりは怒って一人で 先に読む ・弘子「第1回です」
6	(5日目)	一瞬の まばたき	(父の 手書き6)	郵送、(A)	フィク ション	—	—	洋介は主人公を批判	・洋介「夏休みに注意す べき十条」
7	(6日目)	一九一八 六一	(父の 手書き7)	郵送、(A)	フィク ション	—	○	洋介は教訓を批判、 さゆりは話中の母親 の言葉をかみしめる	・さゆり、父の話の影響 で自分でも書いてみた くなる
8	(7日目)	小さな王様 (2)	(父の 手書き8)	郵送、(A)	フィク ション	○	—	姉弟の反応不明	・有名な詩人が本を寄贈 ・さゆり一人で読む
9	(8日目) 土曜日	すてきな ジバン	(父の 手書き9)	郵送、(A)	フィク ション	—	○	洋介は教訓を最低だ と批判	・さゆりは本の掃除
10	(9日目) 日曜日	うっかり博士 の最後	詩人先生の 3枚の原稿 用紙	整理中の本 から落ちた	「童話」	—	—	洋介、笑いながら読 み、光介のよりは 「しゃれてる」	・郵便局は休み ・詩人から寄贈された本 ・さゆり、一人で先に読 む
11	10日目	小さな王様 (3)	(父の手 書き10)	郵送、(A)	フィク ション	—	○	洋介は教訓を批判、 さゆりは小さな王様 が日本でどうするの か思案	・前日の日曜に郵便局に 届いていたもの ・夏休み10日目

12a	11と同日	近眼先生	ワープロ (さゆり、 弘子と推測)	郵送、手紙 は不明	フィク ション	—	○	洋介は教訓を批判、 さゆりは弘子につい て複雑な気持ちに	・月曜午後に配達
12b	(11日目)	八助	ワープロ	郵送、(A)	フィク ション	—	○	洋介は教訓をひねり すぎと批判、さゆり はワープロが気になる	・林間学校第1陣出発
13	(12日目)	悲観主義者と 楽道家	父の手 書き11	郵送、(A)	フィク ション	—	○	洋介は教訓に同感、 さゆりは父の字に安 堵	・林間学校第2陣初日 ・洋介、一人で先に読む
14	(13日目)	見えないライ バル	父の手 書き12	郵送、(A)	実話	—	○	心にライバルがいる か姉弟真剣に考え る、さゆりは筆跡に 安堵	・光介、イタリアから弘 子に電話する
15	(14日目)	小さな王様 (4)	(恐らく ワープロ)	郵送、(A)	フィク ション	—	—	洋介「下手な教訓が ついていないから すっきりしていい」 さゆり、父と弘子が 近づきすぎると感じ る	・光介の浮沈図書がイタ リアの出版社に売れる
16	(15日目) 土曜日	泡の一生	父の手 書き13	弘子から手 渡し	フィク ション	○	○	さゆりの反応不明	・弘子がトキの詩を借り に村に来て、さゆりに手 渡す ・鎮守の祭が近い(翌日)
17	16日目 日曜日	おろか村	弘子	口頭	フィク ション	—	—	姉弟の反応不明	・ワープロの真相を弘子 が認める ・4-5日前に光介が弘子 に電話で読み上げ
18	(17日目)	小さな王様 (5)	(恐らく ワープロ)	郵便配達員 の手渡し、 (A)	フィク ション	—	—	さゆり、弘子の手紙 の説教調にうんざり し、作中に「イソップ 社」の名前が出て きたことに驚く	・郵便配達員が前日に弘子 から個人的に預かる ・洋介、山小屋宿泊
19	(18日目)	偉ぶった 市長さん	(恐らく ワープロ)	郵送、(A)	フィク ション	—	—	姉弟の反応不明、さ ゆりは心中弘子に助 けを求める	・洋介、遭難騒動の後、 村に戻る
20	(19日目)	東京と お日さまと	(恐らく ワープロ)	郵送、(A)	フィク ション	—	—	さゆり、登場人物が 片親ばかりなのに気 づき、不自然に思う	・詩人に寄贈された本の うち二千冊を並べ終わ る ・洋介、先に一人で読む
21	(20日目)	小さな王様 (6)	(恐らく ワープロ)	郵送、(A)	フィク ション	—	—	姉弟、「お天気づく りの魔女」はイソッ プ社の中山さんかと 推測	・小川秀雄記念文庫開館 ・夏休み残り2週間
22	(21日目)	利発な王子	父の手 書き14	郵送、(A)	フィク ション	○	○	さゆり「いつもとち がってすっきりした るアイデアに洋介は賛 成、父の教訓は白け ると指摘	・さゆり、詩の読み聞か せ ・光介の話を読み聞かせ るアイデアに洋介は賛 成、父の教訓は白け ると指摘
23	(22日目)	魚清の お兄さん	詩人	口頭	日本昔話 の改作	—	—	さゆり「絵本に向い ている」	・詩人先生が村に来る
24	23と同日	小さな王様 (7)	(恐らく ワープロ)	郵送、(A)	フィク ション	—	—	さゆり、二人が会社 に入ってしまうと慌 てる	・林間学校第2陣、翌日 東京へ引き揚げ
25	(23日目)	どっちが うまいか	(恐らく ワープロ)	郵送、(A)	フィク ション	—	—	姉弟の反応不明	・林間学校第2陣出発
26	(24日目)	アメリカ かぶれ	(恐らく ワープロ)	郵送、(A)	フィク ション	—	—	姉弟の反応不明	・さゆりに昭彦から手紙 が来る

27	(25日目)	小さな王様 (8)	(恐らく ワープロ)	郵送、(A)	フィク ション	—	—	さゆり「なかなかう まく書いている」洋 介、弘子が書いたと 推測	・話の中に近藤の芝居の 小道具が出てくる
28	(26日目)	口をきく お金	弘子の 手書き	郵送、近藤 の手紙	フィク ション	—	—	さゆり、文字の特徴 からワープロの話は 弘子によることを知 る	・教訓は父の署名 ・弘子は交通事故で入院、 近藤が郵送
29	(27日目)	ゴンベ狸	郵便 配達員	口頭	郵便配達 員の祖父 の体験	—	—	洋介「おもしろいお 話を聞いてちゃった な」	・さゆり、聞いた話をお 返しに弘子に書いて送ろ うと思い、30で発送
30	29と同目	小さな王様 (9)	さゆり・ 洋介	紙に合作	フィク ション	—	—	さゆり「なんだか堅 苦しいお話ね」	・弘子から手紙は来ない ・洋介の提案で弘子に郵 送
31	(28日目)	長助さん	トキおばあ さん	口頭	トキの曾 祖父の話	○	—	洋介、自分がよくあ わてるのは遺伝だと 納得	・夏休み後数日、翌日帰 京
32	(29日目)	巡り会い	新幹線の男 性乗客	口頭	コント	—	—	洋介「ウソも他人の 役に立つことがある んだ」	・新幹線で、洋介、さゆ りの「病気」が直ったと 指摘 ・プロードウェイ上演作
33	(30日目)	猫のミラノ	光介の ファックス	弘子が読み 上げ	実話	—	—	さゆり、現実を受け 入れなければならない と思う	・姉弟、インソップ社経 由で弘子の入院先病院へ ・さゆり、三人で「小 さな王様」の続きを書こう と提案
34	(不明)	苦心の 歯医者さん	昭彦の父の 手紙	昭彦から手 渡し	書簡	—	—	さゆり、これも新し い関係だと考える	・弘子の退院祝い ・昭彦の父から詫言と説 明
35	—	後日談 (父帰りっぱ なし)	父	口頭	演劇用	—	—	洋介不在、近藤は「だ め」、さゆり「父の 冗談好きだけは変 わっていない」	・学校帰りにインソップ社 へ ・ミラノの泥棒の話も 「父帰る」の後日談
36	—	小さな王様 (10)	弘子・ さゆり	紙に合作	フィク ション	—	—	洋介不在、さゆりは 知恵を出し合って新 しいことを生み出す ことが魔法ではない かと思う	・日本料理屋で昼食弁当 ・光介、禁煙を宣言し、 洋介に弘子との結婚を指 摘されて認める
37	9月第一 土曜	小さな王様 (11)	弘子・ さゆり	紙に合作	フィク ション	—	—	・さゆり、最後の一 節を力を込めて読み 上げる	・前日にさゆりと弘子が 考えた「小さな王様」最 終話 ・光介の案は洋介が却下

※小さな王様シリーズタイトル一覧

- | | |
|--------------------|------------------------|
| (1) 小さな王様 | (7) 小さな王様、お天気づくりの魔女と話を |
| (2) 小さな王様、船出する | (8) 小さな王様、天気的神様に会う |
| (3) 小さな王様、取り引きする | (9) 小さな王様、怒り出した地球を知る |
| (4) 小さな王様、帽子の秘密を知る | (10) 小さな王様、尖がり帽子を縫う |
| (5) 小さな王様、陸に上がる | (11) 小さな王様、島へ帰る |
| (6) 小さな王様、水玉を発見する | |

文献目録

井上 ひさし 著 『インソップ株式会社』 中央公論新社 2005

井上 ひさし 著 『インソップ株式会社』 中公文庫 中央公論新社 2008

井上 ひさし 著 『井上ひさし短編中編小説集成』 第2巻 岩波書店 2014

井上 ひさし 著 『井上ひさし短編中編小説集成』 第5巻 岩波書店 2015a

- 井上 ひさし 著 『井上ひさし短編中編小説集成』 第12巻 岩波書店 2015b
 井上 ひさし 著 『吉里吉里人』 新潮社 1981
 井上 ひさし 著 『十二人の手紙』 中公文庫 中央公論新社 2009
 井上 ひさし 著 『腹鼓記』 新潮社 1985
 ソーマデーヴァ 著、上村 勝彦 訳 『屍鬼二十五話』 東洋文庫 323 平凡社 1978
 田中 於菟弥 訳 『鸚鵡七十話：インド風流譚』 東洋文庫 3 平凡社 1963
 田中 於菟弥・上村 勝彦 訳 『パンチャタントラ』 アジアの民話12 大日本絵画 1980
 中務 哲郎 訳 『イソップ寓話集』 岩波文庫 赤103-1 岩波書店 1999
 前嶋 信次 訳 『アラビアン・ナイト 1』 東洋文庫 71 平凡社 1966
 前嶋 信次 訳 『アラビアン・ナイト 12』 東洋文庫 399 平凡社 1981
 前嶋 信次 著 『アラビアン・ナイトの世界』 平凡社ライブラリー 113 平凡社 1995
 宮川 健郎 著 『『イソップ株式会社』— 手紙がつくり出すもの』『国文学 解釈と鑑賞』 76 (2) :
 160-165 至文堂 2011
 『読売新聞』 縮刷版 読売新聞社 2004年

参考ウェブサイト一覧

- 「井上ひさし公式サイト：プロフィール」 <http://www.inouehisashi.jp/profile.html>
 「こまつ座トップページ」 <http://www.komatsuza.co.jp>
 「JR東日本発足からの歩み」
https://www.jreast.co.jp/youran/pdf/2016-2017/jre_youran_shogen_p83-86.pdf

注

- (1) 井上 2005、井上 2008、井上 2015b: 307-464。本論文では、最初に刊行された井上 2005を主に使用する。
 (2) 『読売新聞』縮刷版 2004年5月8日 朝刊30面。
 (3) また、今村忠純による解題では、『イソップ株式会社』は「書簡体小説の形式を借りている」と書かれている(井上 2008: 480)。しかし、実際には、「お話」としてカウントされている38話の中で文字通りの意味で「書簡」なのは、「第三十四のお話」(苦心の歯医者さん)の1話に過ぎない。また、光介の話に、さゆりたちにあてた私信がついているのは、「はじめのお話」の1話のみで、他の「手紙」は、弘子が書いた短信である。さらに、口頭、ファックス(私信なし)、あるいは発見した原稿用紙、登場人物による合作が11話にのぼる。
 (4) 井上 2008: 321 (あとがき)。
 (5) 井上 2005: 12-13。
 (6) 井上 2005: 14。
 (7) 井上 2005: 149-151。
 (8) 井上 2005: 10。
 (9) 井上 2005: 290。
 (10) 「井上ひさし公式サイト：プロフィール」
 (11) 「こまつ座トップページ」
 (12) 井上 2005: 18。
 (13) 「井上『今回は小学校高学年から読める作品にしますが、僕の体験だと、面白いものには大人も子供も関係ない。……』」(『読売新聞』縮刷版 2004年5月8日 朝刊30面)。
 (14) 第十三のお話。井上 2005: 106。
 (15) 前嶋 1995: 26。「アントアンヌ・ガラン」と紹介されているが、フランス語のつづりは

Antoine Gallandなので、「アントワヌ・ガラン」と読むのが適切であろう。

- (17) 別表参照。
- (18) 井上が手紙という媒体に愛着を持っていることは、二作の書簡体小説『十二人の手紙』や『わが友フロイス』を著していることに加えて、他の多くの作品の中でも書簡が使われていることから窺える。例えば、『腹鼓記』の詫び証文(井上 1985: 271-272)や書き置き(井上 1985: 287)、『モッキンポット神父の後始末』中「モッキンポット神父の後始末」の紹介状(井上 2014: 7)および『聖ピーター銀行の破産』の書留と葉書(井上 2014: 71)、『紙芝居平家物語』中「紙芝居拜啓物語」の書簡5通(井上 2015a: 390-392)、『東慶寺花だより』の離縁状(井上 2015b: 131)など。
- (19) 「海のシンドバードと陸のシンドバードの物語」、『千一夜物語』第537夜から第566夜。前嶋 1981。
- (20) 井上 2008: 50-51。
- (21) 前嶋 1966: 9。
- (22) 前嶋 1966: 12。
- (23) 第537話。前嶋 1981: 4-9。
- (24) 別表参照。
- (25) 井上 2005: 19-20 (第二のお話)。
- (26) 井上 2005: 43 (第五のお話)。
- (27) 井上 2005: 132-133 (第十六のお話)。
- (28) 井上 2005: 251-2 (第三十一のお話)。
- (29) 井上 2005: 180 (第二十二のお話)。
- (30) 井上 2005: 69-70 (第八のお話)。
- (31) 例えば、『吉里吉里人』、『腹鼓記』、『不忠臣蔵』、『浅草鳥越あずま床』、『青葉繁れる』、『合牢者』、『手鎖心中』、『月なきみそらの天坊一座』など。
- (32) 別表参照。
- (33) 別表の備考欄参照。
- (34) 娯楽目的のインド説話文学、例えば『鸚鵡七十話』や『屍鬼二十五話』では、挿話の目的はなぞかけなどであり、しばしば主人公の利発さが強調される。
- (35) 井上 2005: 226-227。
- (36) 別表参照。光介による話以外では、祖母トキの曾祖父の話である「第三十一のお話」の教訓に、洋介は自分がよくあわてるのは遺伝のせいだと納得している。
- (37) 別表参照。
- (38) 「小さな王様」シリーズのうち、教訓がついているのは、「第三のお話」だけである。
- (39) 上の3. 2. で示したように、『パンチャタントラ』作品群では、枠の物語にもそれぞれ教訓がある。
- (40) 親子ではないが、ルイス・キャロルがアリス・リデルのために即興で創作した『不思議の国のアリス』は特に有名であろう。